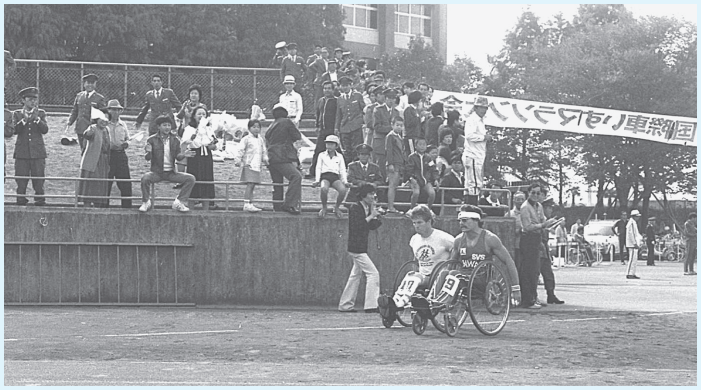
大分県公文書館だより

「AR」はアーカイブズとアーキビストの頭2字をとり、歴史情報を守り未来に生かすきっかけの使命を表してします。

平成 31 年 第 26 号



第一回大分国際車いすマラソン大会

（大分県広報写真より）

大分国際車いすマラソン大会は、昭和五六年の国際障害者年の記念行事を検討する過程で、大分中村病院の院長であり、社会福祉法人別府太陽の家の理事長でもあった中村裕（ゆたか）氏が、「世界で初めての車いすだけのマラソンを」と提唱し、国内外に働きかけを行った結果、開催が実現しました。

第一回大会は、同年一一月一日に開催され、アメリカ・ヨーロッパの強豪や、インドネシア・香港等の極東・南太平洋の近隣地域から参加した世界一四カ国、一一七名の選手（外国人選手四三名、県外選手四二名、県内選手三二名）がハーフマラソンを走りました。

第一回大会には、次のようなエピソードがあります。

レース中終始トップ争いを続けたゲオルグ・フロイント選手（オーストリア　写真右　二九番）とジム・クナウブ選手（アメリカ　写真左　一八番）は、大分陸上競技場の最終トラックでの勝負となりましたが、両選手は、最後のゴール時、共にガッツポーズをして手を繋いだままフィニッシュし、「友情の二人優勝」をアピールしました。

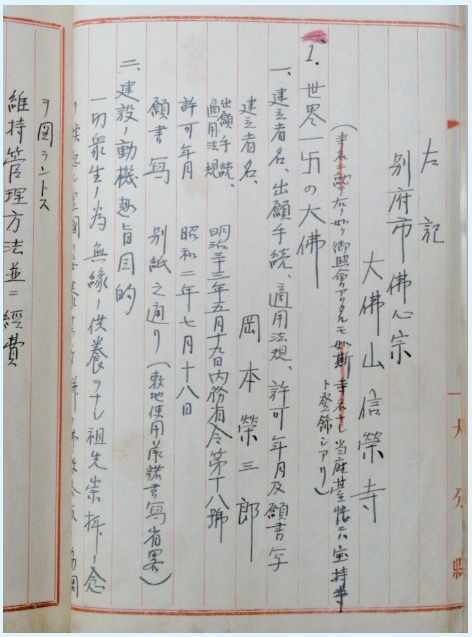
しかし、このマラソン大会の提唱者であり、「保護より機会を」を理念に太陽の家を創設した中村裕氏は、「このレースは慈善事業ではない。あくまでも勝負であり一位と二位を決めるべきだ」と意見し、写真判定の結果〇・一秒の差でフロイント選手が優勝となりました。

第一回大会の成功により、再開催の声が高まったことで、翌年も開催され、更に第三回大会からはフルマラソンを実施したことで広く世界へ知られることとなり、大会は現在まで続いています。

別府の大仏

大分県別府市には、奈良の大仏よりも大きい大仏がありました。

当館は、この大仏に関し、昭和五年に文部省の依頼により行った調査に関する文書を保存しています。（「大仏建立ノ件」『寺院一件　昭和六年』写真①）



写真①

この内、大分県が県警察部と別府市長を通じて作成した回答文書によれば、大仏に関して表①のようなことがわかります。

また、大仏建立の動機や目的は、次のようになっています。

「一切衆生（生きとし生けるすべての生き物）ノ為無縁ノ供養ヲナシ祖先崇拝ノ念ヲ煥起シ皇國ヲ安泰ナラシメ併テ佛教各派ノ協調ヲ図ラントス」

大仏の高さについては、「別冊大佛山縁起録ニアリ」と記載されていますが、残念ながらその資料は欠損しています。しかしながら、当館と併設する県立図書館が保存する「大佛山縁起録」（昭和三年）によれば、昭和三年に建立されたこの大仏の高さは「八十尺」（約二四m）となっており、奈良の大仏（高さ一八．〇三m：像高と蓮華座高を合わせた高さ）よりも高くなっています。

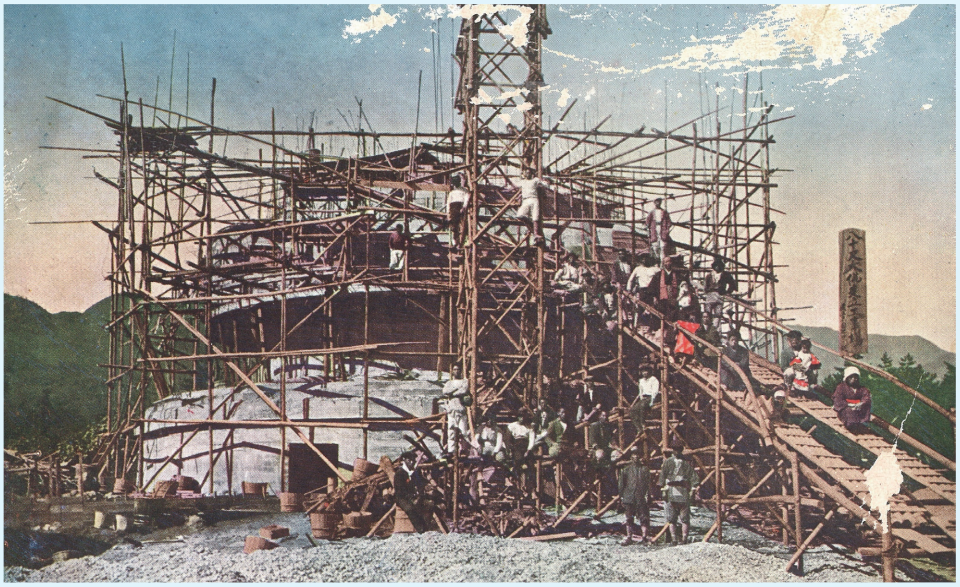
更に、大仏の内部は三階建てになっており、参拝客や観覧者が中に入ることができ、各所に「幾百燭の電燈の設備」があったようです。

当館では、この公文書のほかにも、絵はがきを保存しており、大仏建設の様子（写真②）や、完成した大仏（写真③）がどのようなものであったかを知ることができます。

戦後も別府の観光名所として存在し、人々に親しまれた別府の大仏ですが、建立から六〇年以上が経過した平成元年に老朽化を理由に解体されました。解体前には、閉眼式が行われ、人々が大仏との別れを惜しみました。

建立者	大佛山信榮寺　岡本榮三郎
敷地	別府市大字別府字境一五二二番地
構造	鉄筋コンクリート造
建設費	一三万六，二三五円
維持管理方法	観覧料に依る
観覧者数	約一〇〇人／日
観覧料	一〇銭

表①



写真②

写真③

小鹿田焼とバーナード・リーチ

小鹿田焼は、宝永二年、小石原（福岡県）の陶工柳瀬三右衛門が藩命により日田市の北部に位置する小鹿田に出向し、皿山を開基したことから始まります。（「大分県文化財調査報告書第三十二號小鹿田の傳統と陶技」）

窯元が谷川の水を利用した唐臼で土を砕き、薪を使って登窯で焼くという昔ながらの技法で作られる素朴な焼き物で、現在も日常的に使用される什器として親しまれています。

民芸運動を起こした柳宗悦が昭和六年に来窯し、同年「日田の皿山」を発表したことにより、小鹿田焼は注目を浴びることになります。

更に、昭和二九年には世界的に著名なイギリス人の陶芸家バーナード・リーチが来窯。皿山に三週間滞在し、小鹿田焼の陶技を研究しました。

県の広報誌『懸政の窓』の昭和二九年六月号には「土の花と異人さん　皿山のバーナード・リーチ」として特集記事が組まれており、リーチ、柳に加え、窯元の坂本忠蔵、細田大分県知事、日田工芸指導所寺川所長による懇談を掲載しています。

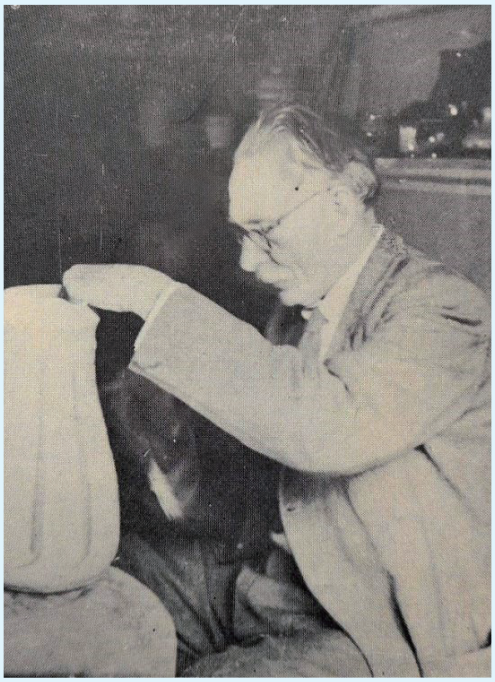
出席者の言葉からは、リーチの滞在時の様子や、小鹿田焼や皿山に対する考えなどを知ることができます。

○バーナード・リーチ

「私の國でも米國でも、この村のようなよさは残ってないんです。もうほんとにいうと心の仕事です。心から自然的で、傳統的で、永い年の間にたまったよさ―それをみたかったのです。」

（寺川所長の小鹿田全部の仕事であり、大衆の民器であるという発言に対し）「かりのこちらでハイカラになってくると、その意味が、西洋の影響がいろいろの現代の影響をもらうはずです。それは日本で、私の考えでは、それはこの頃多すぎるんです。そのくらい強い西洋からのもらった影響があれば、自分の國の昔からのネウチに感心しないような形になったのです。」

「私がおどろいたことは、よろこんだことは、小鹿田ではただセトモノ作る問題だけではないんです。人間と人間の間の同盟です。」



○坂本忠蔵

「書のごはんなんか、（リーチに）ごはんにしましょうというと、もう書かとか、夕方などおふろにおはいり下さいというと、それから一時間ぐらい、もうくらくなってしまう迄仕事をしました。今迄のところ一日も休みがなくて、あまり仕事がはげしかったものですから、少しかぜを引いたようでありまして、お氣の毒です。」

「私が半分ぐらい加勢して原型をつくって、それからさき、最後の仕上げを（リーチ）先生にお願いしたんです。」

○柳宗悦

「このカマは歴史が相当永いのですが、今まで不思議にも小鹿田に関して殆んど一言も書いた本がないのであります。しかし、ある意味では、それ程知られなかったことがこの小鹿田に非常に幸いしたと思います。知られてなかった爲に、非常によく昔からの傳統が傳わっていて、その意味で、日本のカマ場としては最も純粋であると思います。いいかえれば、昔からの手法がそのまま保存されている。」

「技術や色や型がいいということよりも、もっとその背後にあるくらしがここのものをよくしているんだと、それはみんな、このカマ場の人が一致団結して、リーチさんは同盟という言葉をつかわれましたが、仲よく力あわせて仕事をするという精神が、一番たっといだろうと思います。」

柳宗悦とバーナード・リーチの来窯により、造形的な力強さ、素朴な美しさを見出された小鹿田焼は、日本の代表的な民芸品・民窯として知られることとなります。

この後、小鹿田焼は昭和三二年に県の重要無形文化財、昭和四五年に国の記録保存文化財の指定を受け、平成七年国の重要無形文化財の指定を受けます。

また、平成八年に小鹿田里山の唐臼が、環境省の「残したい〝日本の音風景一〇〇選〟」に、平成二〇年には皿山地区全体が「小鹿田焼の里」の名称で文部科学省の「重要文化的景観」に選定されました。

公文書の補修

当館が収集した公文書に「御布達綴（おんふたつづり）　明治四年」という資料があります。

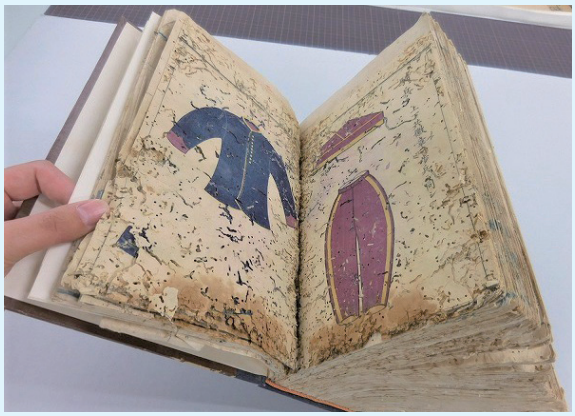
この資料は、県の担当機関（所属）から収集しましたが、タイトルからもわかるように明治の初め頃、現在の大分県になる前の日田縣（けん）に国から布達されたと思われる文書を綴った簿冊（ファイル）です。

したがって、貴重な公文書が多数含まれていると推測されました。

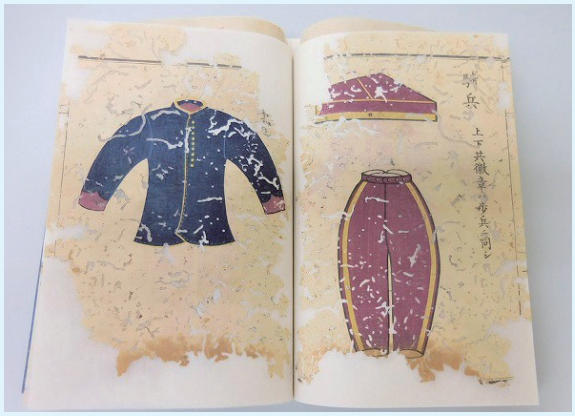
「思われる」、「推測されました」とあえて書いたのは、写真①でもわかるように、汚損、虫損、潰れ、接着など保存状態が悪いため、そのままでは文書をめくることも難しい状態だったからです。また、それほど遡らない時期に、ハードカバーの表紙へ付け替えられており、現代的な製本までされていました。

一五〇年近く前の公文書ですから、おそらく役所の変遷でいろいろな箇所を渡り歩き、厳しい環境に耐えながら、現在まで保存されてきたのだと推測されます。

写真①



写真②



写真③

状態はよくありませんが、それでも長い年月を経て保存機関である当館へたどり着いたことは、大変意義のあることと思います。

ただ、この状態では、一度解体して、文書ごとに修復を行なわなければ利用できません。

修復作業は、専門業者への委託で行いました。

作業としては、ハードカバーを取り外し、文書一枚ごとに分離します。束になって接着していたり、虫損が酷い箇所も多数ありますので、作業は慎重に行う必要がありました。

また、この簿冊は、厚さが一四㎝もあり、八〇〇枚以上の文書が綴じられているのではないかと推測されました。そのため、修復後に原本を直接見たり、デジタル撮影を行うことができる形で分冊を行うことにしました。

実際の作業は、五ヶ月の期間を要しました。

文書ごとに解体し、損傷の状態に合わせて、それぞれ必要な処置を行いました。（写真②、③）

修復された簿冊は、今後、デジタル撮影、文書ごとの分析、複製本の作成を経て閲覧できるようにしたいと考えています。

案内図

発　行　日　平成31年3月20日発行
編集・発行　大分県公文書館

お知らせ

当館は、明治期以降の大分県に関する資料を収集しています。資料についての情報提供、寄贈・寄託などのご相談がありましたら、下記連絡先にお問い合せください。

また、所蔵資料の利用や大分県に関することでお調べになりたいことなどありましたら、お気軽にご相談ください。

利用案内

大分県公文書館　〒870-0008 大分市王子西町14番1号
利用時間▶午前9時～午後5時
休 館 日▶日曜日・月曜日・年末年始・特別整理期間
国民の祝日（日曜日または月曜日と重なった場合は火曜日）
TEL▶097-546-8840　FAX▶097-546-8849
H P▶http://www.pref.oita.jp/site/346/
Mail▶a11103@pref.oita.lg.jp